

6. 防災意識について

6-1. 防災訓練の参加

防災訓練に参加したことがある人は5割半ば

問 16 あなたは、市または自治会が行う防災訓練に参加したことがありますか。また、防災訓練には何回参加したことがありますか。 (n = 1,724)					
1. ある	55.2%	2. ない	44.0%	(無回答)	0.9%
↓					
1. 1回	25.3%	4. 4～5回	11.4%	(無回答)	13.6%
2. 2回	21.0%	5. 6～10回	8.0%		
3. 3回	14.2%	6. 11回以上	6.5%		(n = 951)

防災訓練に参加したことがあるか聞いたところ、参加したことが「ある」(55.2%)は5割半ばで、「ない」(44.0%)を上回っている。(図6-1-1)

参加したことが「ある」と答えた人(951人)の参加回数は、「1回」(25.3%)、「2回」(21.0%)、「3回」(14.2%)などの順となっている。(図6-1-2)

図6-1-1 防災訓練の参加

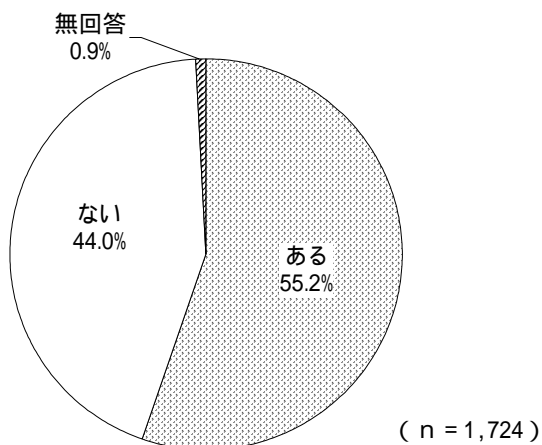
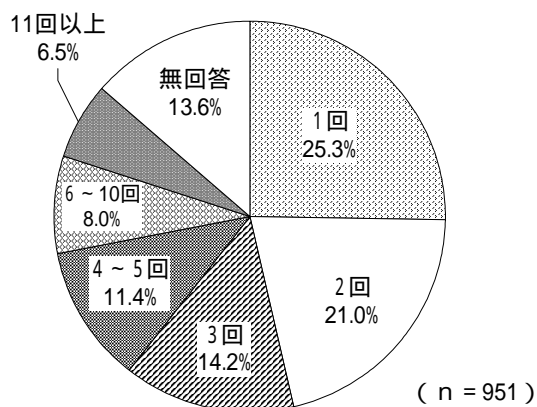


図6-1-2 防災訓練の参加回数



属性分析（図 6 - 1 - 3）

【性別】

「ある」は女性の方が 4 ポイント高くなっている。

【性・年齢別】

「ある」は男性 70 歳以上と女性 50 代で 8 割前後、男女とも 60 代で 7 割前後を占めている。一方、「ない」は男女とも 20 代で 8 割を超え、30 代でも 7 割前後を占めている。

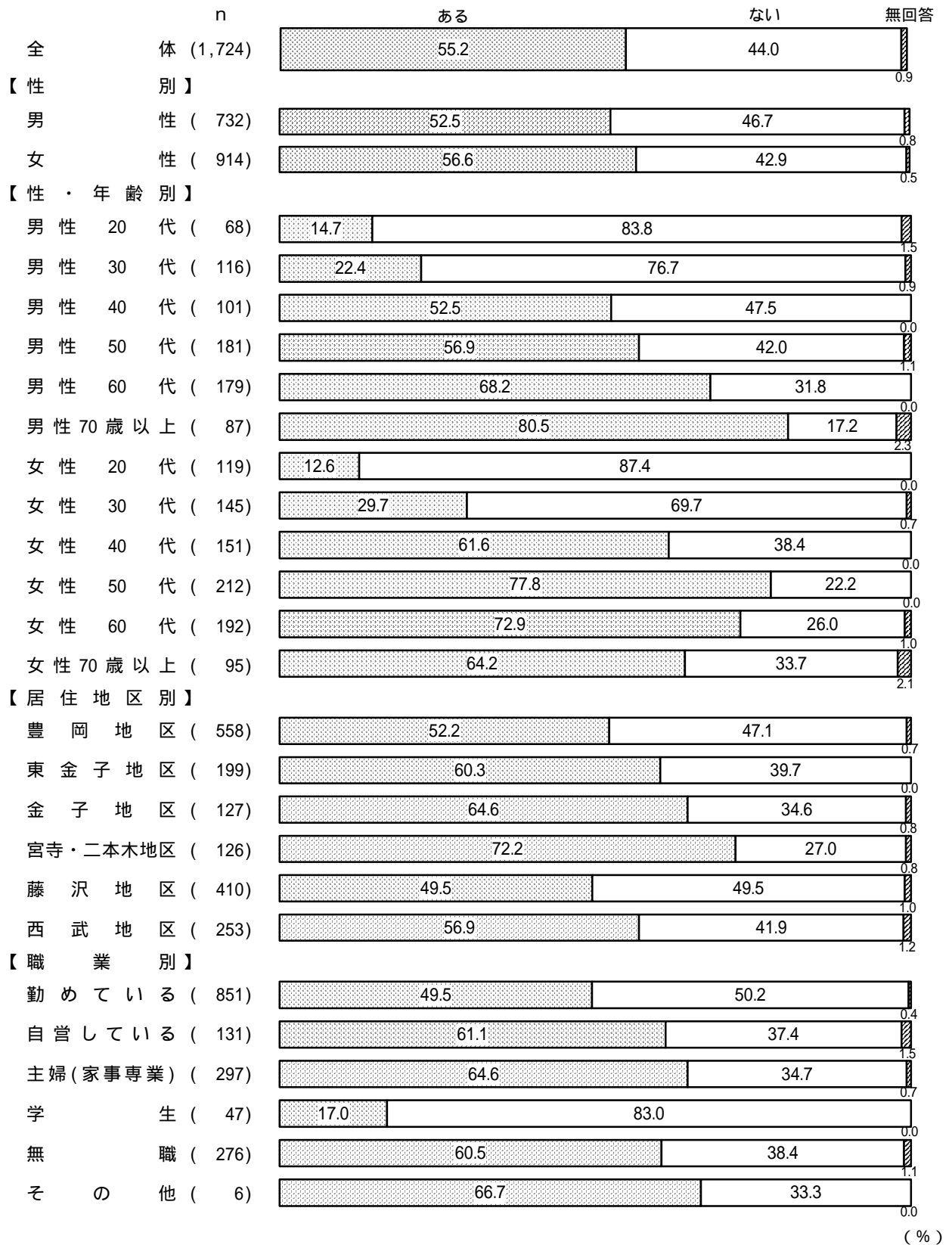
【居住地区別】

「ある」は宮寺・二本木地区（72.2%）で 7 割を超えて多く、金子地区（64.6%）でも 6 割半ばを占めている。

【職業別】

「ない」は学生（83.0%）で 8 割を超えて多く、勤めている（50.2%）でも 5 割を超えており、他の職業と比べて割合が高くなっている。

図6-1-3 防災訓練の参加 - 属性別



(%)

属性分析 (図6 - 1 - 4)

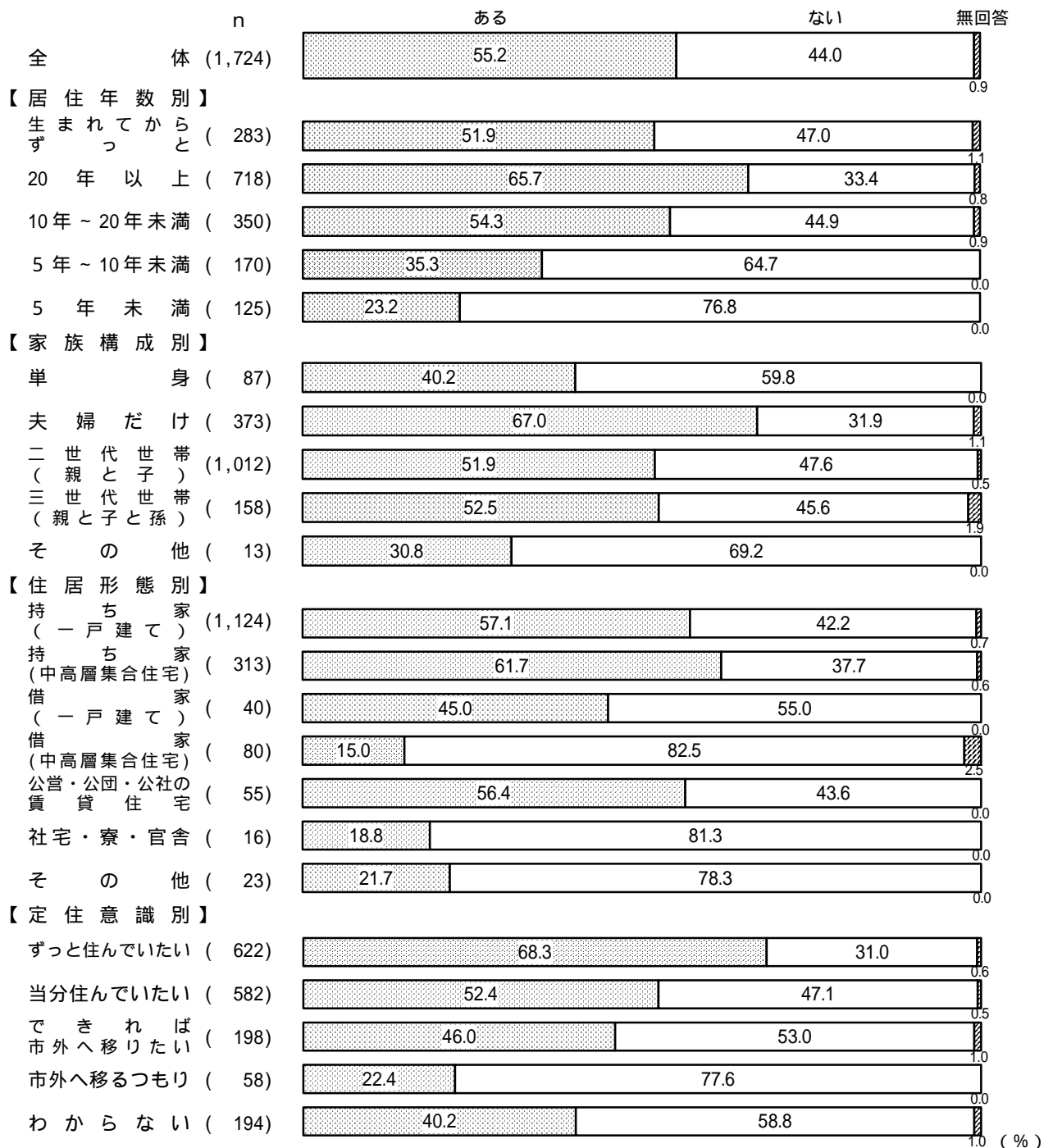
【居住年数別】「ある」は居住年数が長くなるほど割合が高くなっているが、生まれてからずっと住んでいる (51.9%) では逆に割合が落ち込んでいる。

【家族構成別】「ある」は「夫婦だけ」(67.0%) で7割近くを占めて多くなっている。一方、「ない」は単身 (59.8%) で6割を占めて多くなっている。

【住居形態別】「ない」は借家 (中高層集合住宅) (82.5%) と社宅・寮・官舎 (81.3%) で8割を超えて特に多く、借家 (一戸建て) (55.0%) でも5割半ばを占めている。

【定住意識別】定住意向が強くなるほど、「ある」の割合が高くなっている。

図6 - 1 - 4 防災訓練の参加 - 属性別



6 - 2 . 避難所の認知度

知っている人は8割を超える

問 17 あなたは、最寄りの避難所を知っていますか。また、避難所を何カ所知っていますか。						(n = 1,724)
1 . 知っている		82.1%	2 . 知らない		17.1%	(無回答) 0.9%
1 . 1カ所		40.8%	3 . 3カ所		9.5%	(無回答) 14.9
2 . 2カ所		30.6	4 . 4カ所以上		4.1	(n = 1,415)

最寄りの避難所を知っているか聞いたところ、「知っている」(82.1%)は8割を超えて多くなっている。「知らない」(17.1%)は2割近くである。(図6-2-1)

最寄りの避難所を「知っている」と答えた人(1,415人)の知っている避難所の数は、「1カ所」(40.8%)がほぼ4割で最も多く、「2カ所」(30.6%)もほぼ3割を占めている。

(図6-2-2)

図 6 - 2 - 1 避難所の認知度

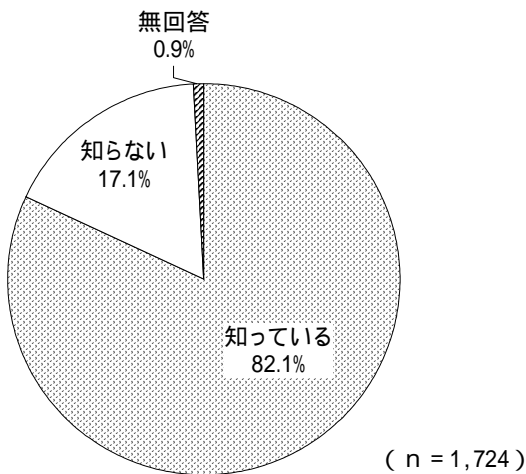
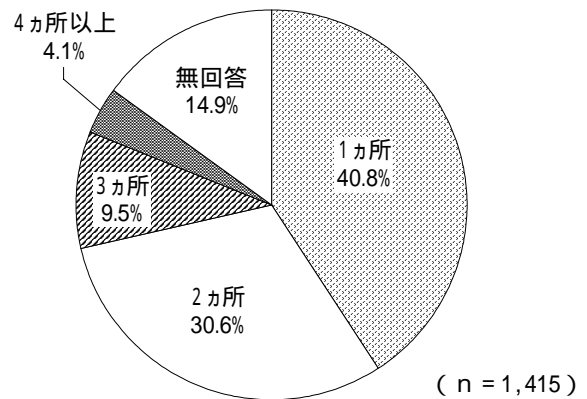


図 6 - 2 - 2 知っている避難所の数



属性分析（図6 - 2 - 3）

【性別】

「知っている」は女性の方が5ポイント高くなっている。

【性・年齢別】

「知っている」は男性70歳以上と女性の40代から60代の年代で9割近く占めている。

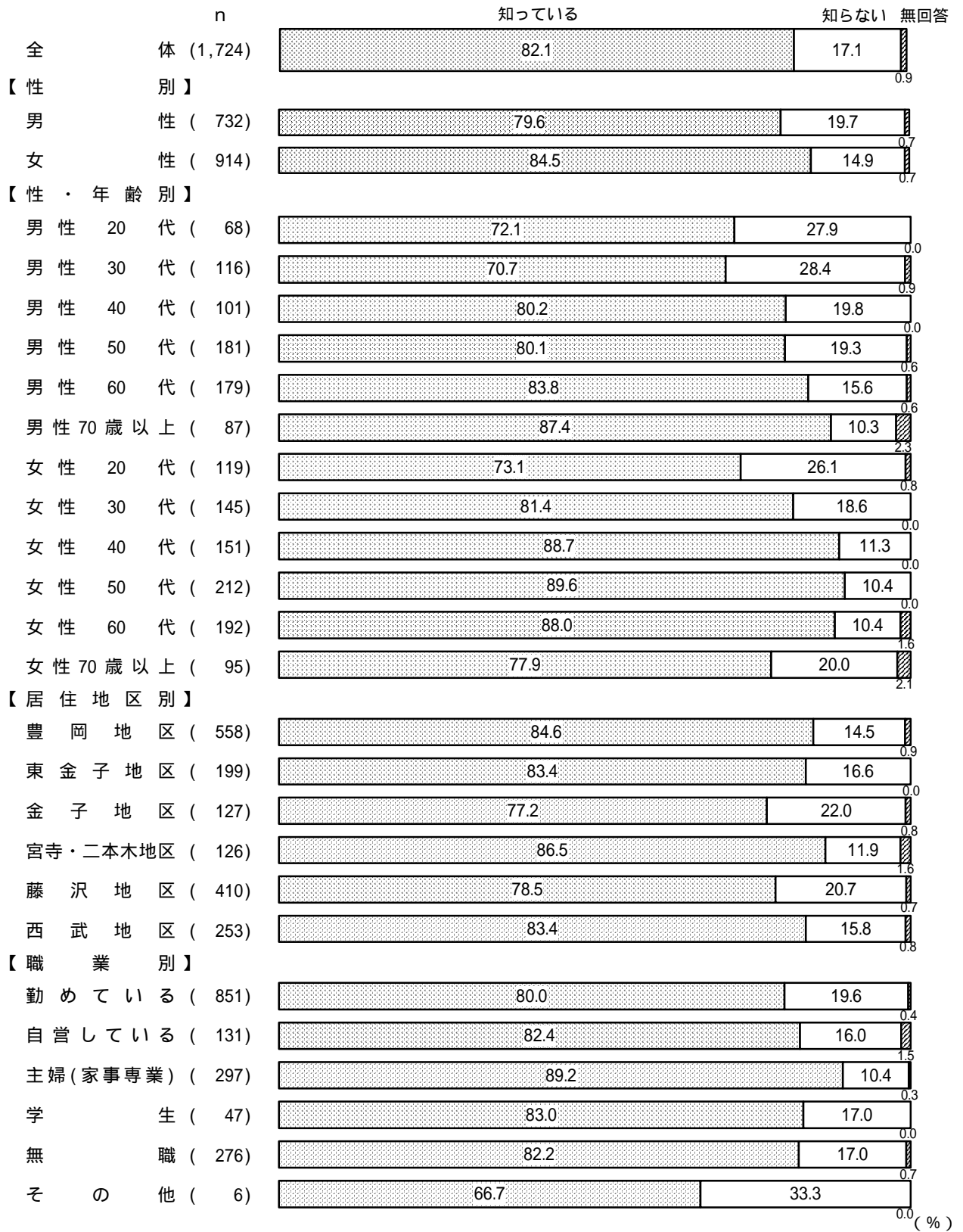
【居住地区別】

「知っている」は宮寺・二本木地区（86.5%）、豊岡地区（84.6%）、東金子地区（83.4%）、西武地区（83.4%）で8割半ばを占めている。

【職業別】

職業による大きな差はみられない。

図 6 - 2 - 3 避難所の認知度 - 属性別



属性分析（図6 - 2 - 4）

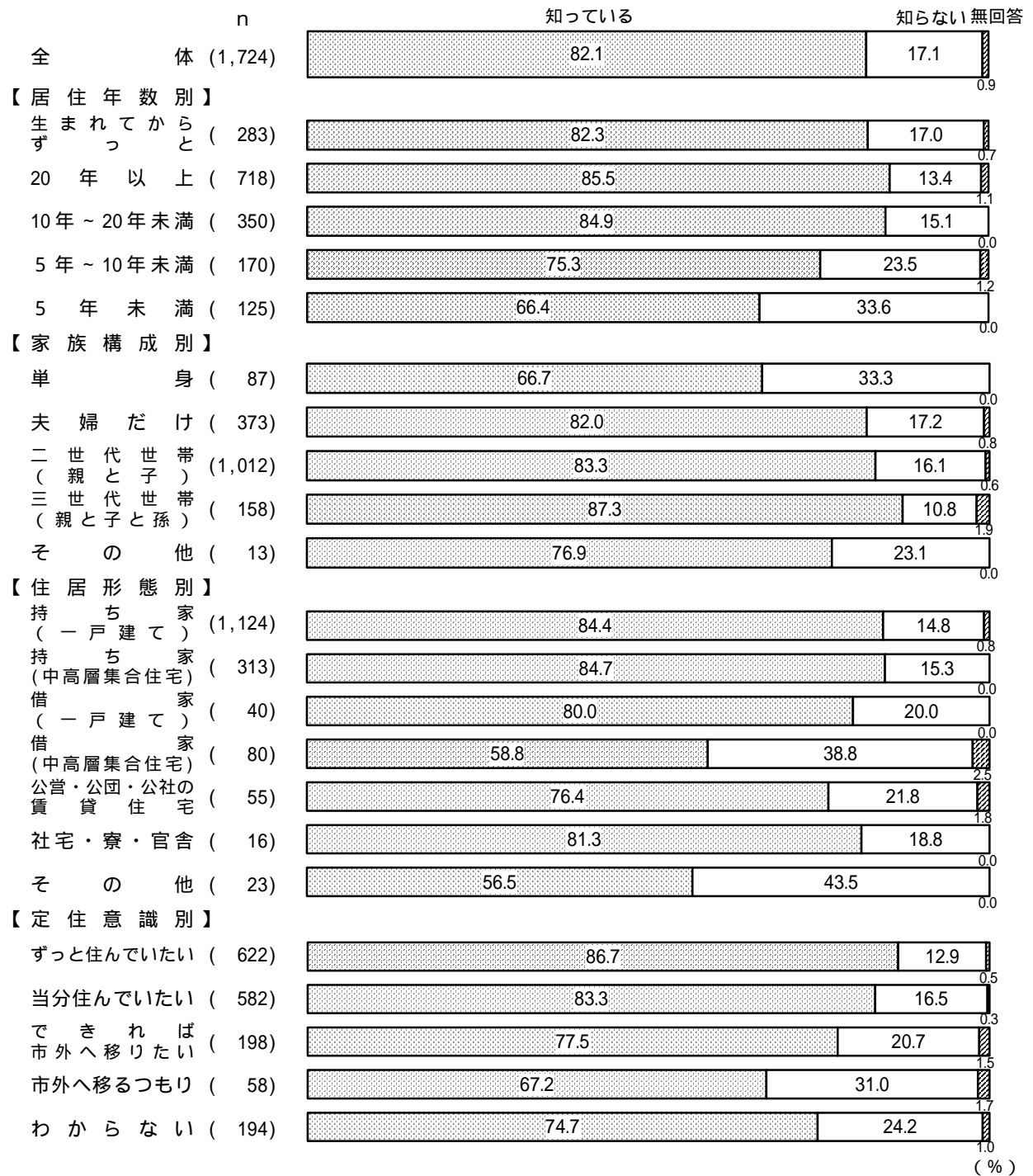
【居住年数別】「知らない」は5年未満（33.6%）で3割を超えて多くなっている。

【家族構成別】「知らない」は単身（33.3%）で3割を超えて多くなっている。

【住居形態別】「知らない」は借家（中高層集合住宅）（38.8%）で4割近くを占めて多くなっている。

【定住意識別】「ある」はずっと住んでいたい（86.7%）で8割半ばを占めている。

図6 - 2 - 4 避難所の認知度 - 属性別



6 - 3 . 災害時に対する準備

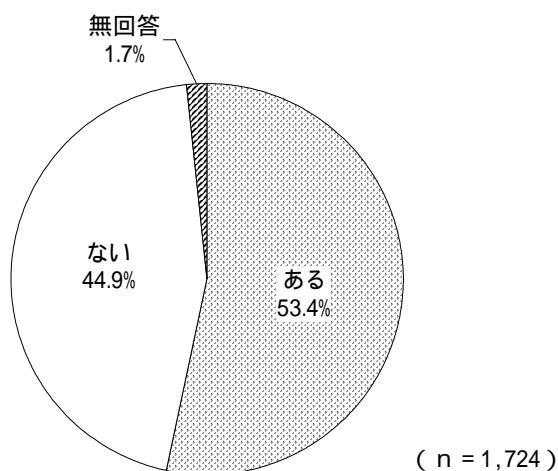
準備や対策を取っている人は5割を超えている

問 18 災害に備えて、準備や対策をとっていますか。(災害時の対応について、家族などで相談して決めてあることや準備していることがありますか。) (n = 1,724)

1 . ある 53.4% 2 . ない 44.9% (無回答) 1.7%

災害に備えた準備や対策をとっているか聞いたところ、準備や対策が「ある」(53.4%)が5割を超え、「ない」(44.9%)を上回っている。(図6 - 3 - 1)

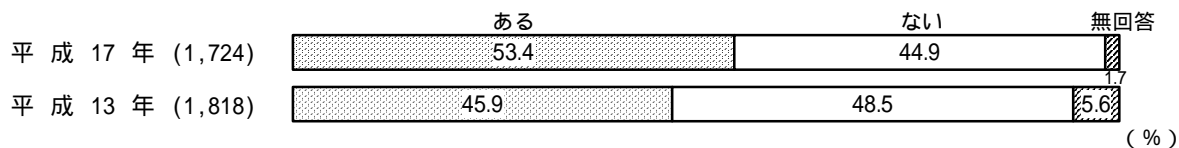
図 6 - 3 - 1 災害時に対する準備



【過年度比較】

「ある」は前回調査から7.5ポイント増加している。(図6 - 3 - 2)

図 6 - 3 - 2 災害時に対する準備 - 過年度比較



属性分析 (図 6 - 3 - 3)

【性別】

男女ともほぼ同じ傾向になっている。

【性・年齢別】

「ない」は男性 20 代と 30 代、女性 20 代で 5 割半ばを占めて多くなっている。

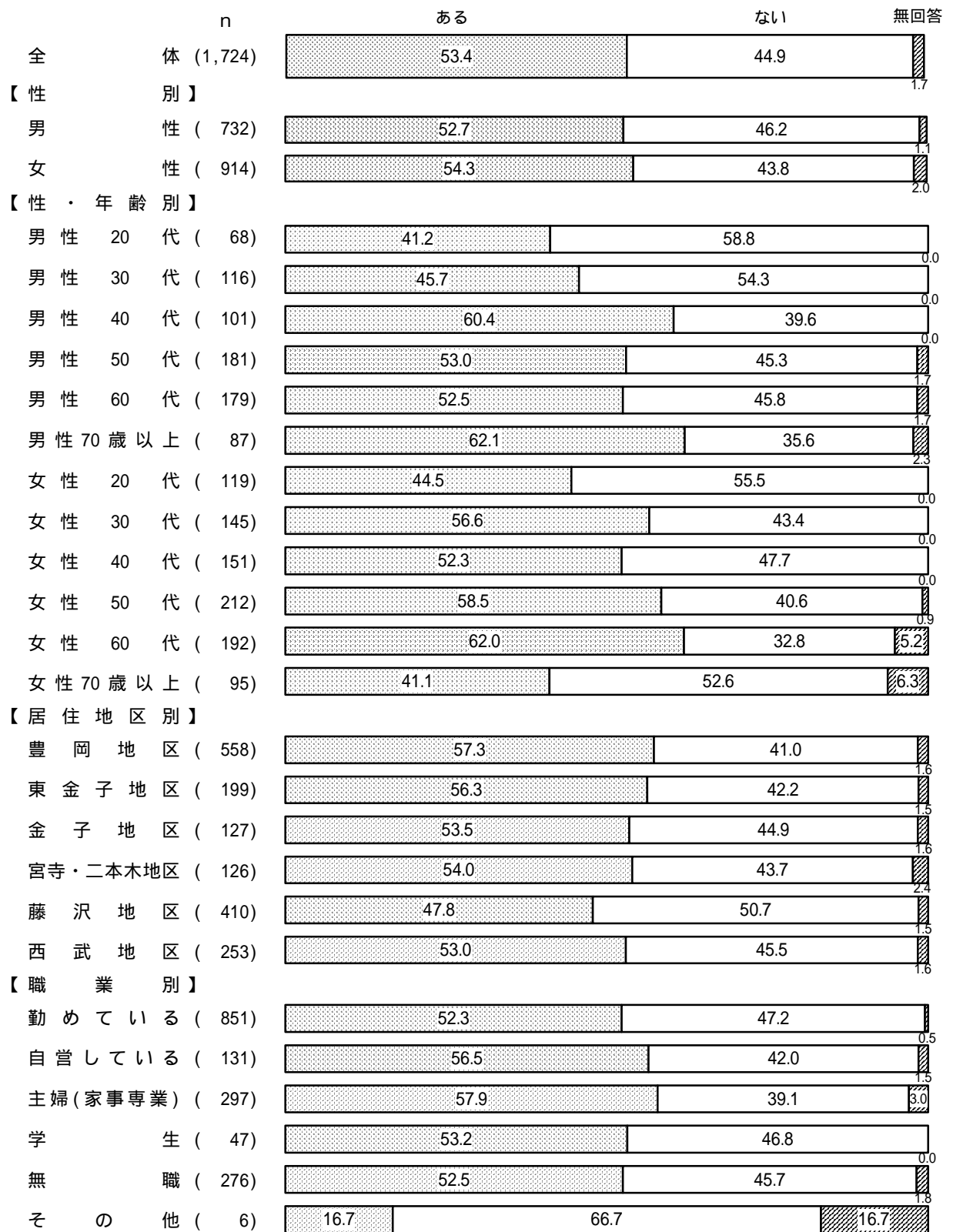
【居住地区別】

「ない」は藤沢地区 (50.7%) で他の地区と比べてやや多くなっている。

【職業別】

職業別では大きな差はみられない。

図6-3-3 災害時に対する準備 - 属性別



(%)

属性分析（図6-3-4）

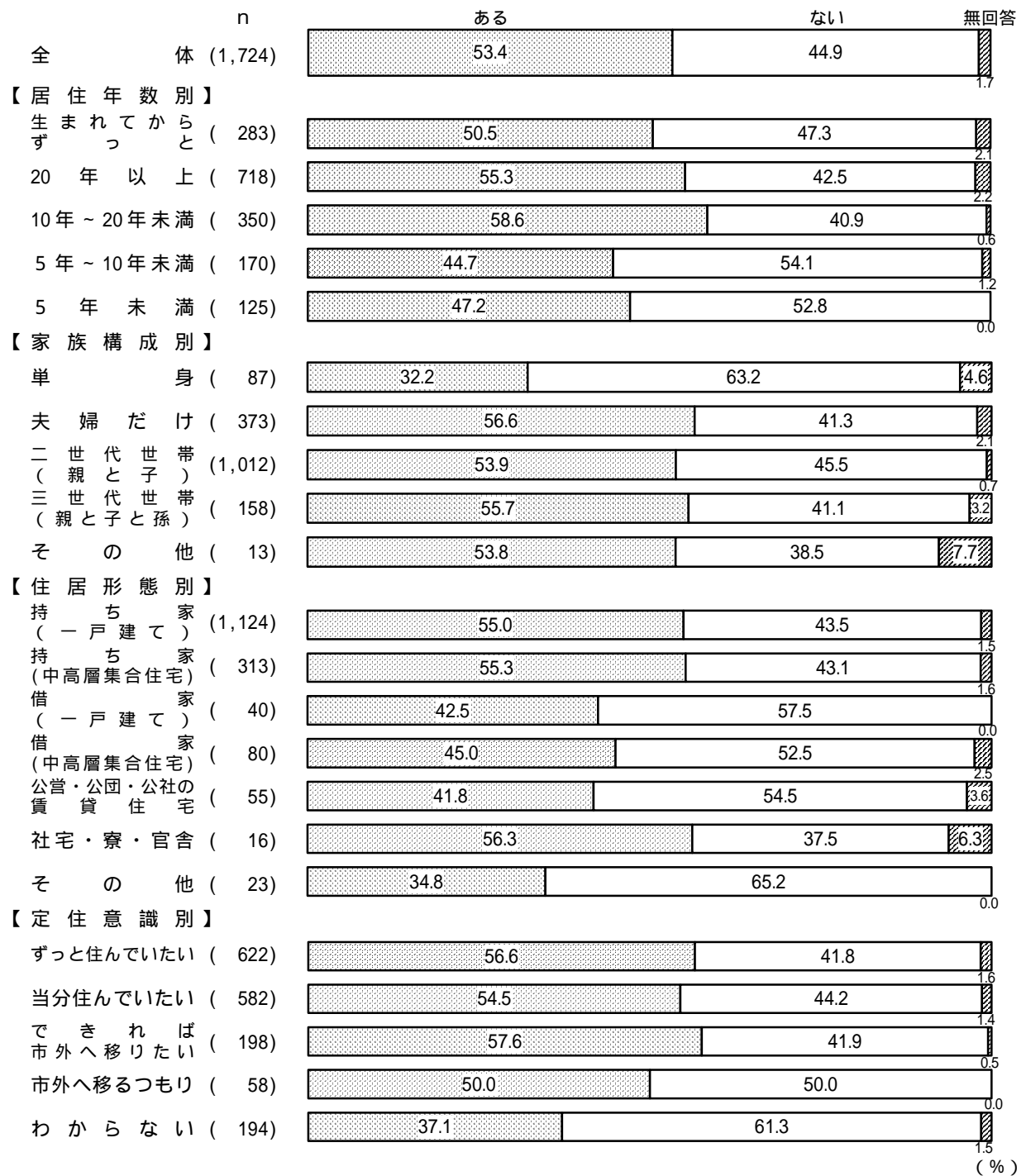
【居住年数別】「ない」は10年未満で5割を超えている。

【家族構成別】「ない」は単身（63.2%）で6割を超えて多くなっている。

【住居形態別】「ない」は、借家のいずれの形態でも5割半ばを占め、持ち家や社宅・寮・官舎に比べて多くなっている。

【定住意識別】定住意識による大きな差はみられない。

図6-3-4 災害時に対する準備 - 属性別



(1) 災害時に対する準備の内容

「家族の集合場所や連絡方法などを話し合っている」がほぼ6割

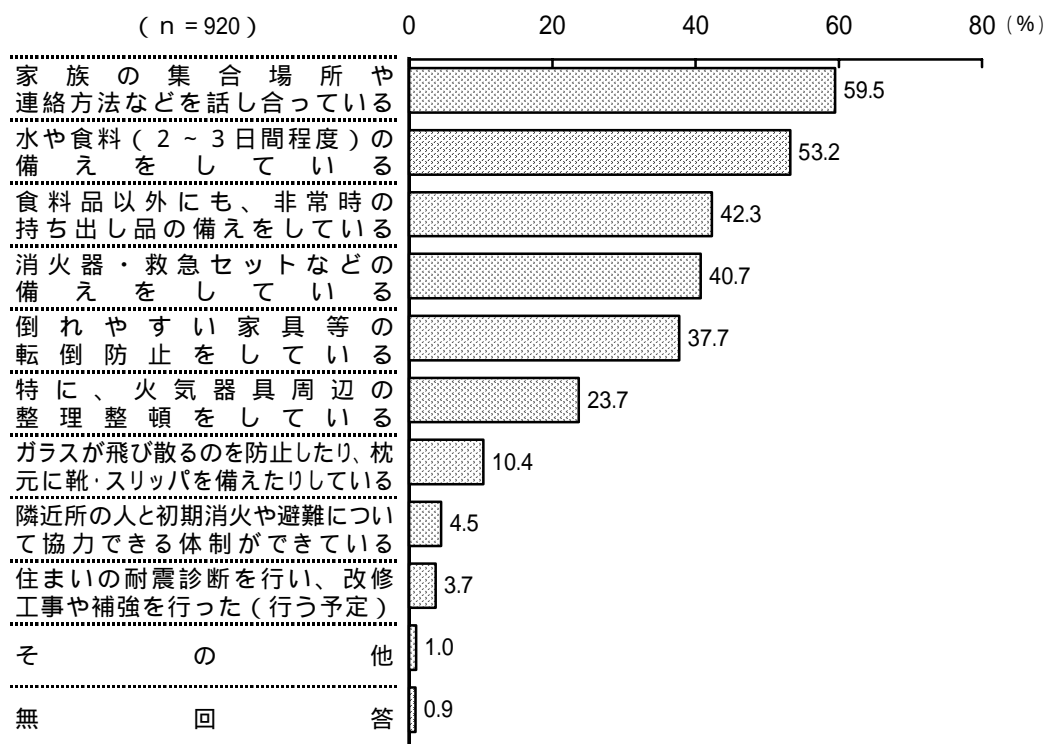
(問18で「1.ある」と答えた方に)

問18-1 それは具体的にどのようなことですか。次の中からいくつでも選んでください。(n=920)

1. 家族の集合場所や連絡方法などを話し合っている	59.5%
2. 水や食料(2~3日間程度)の備えをしている	53.2
3. 倒れやすい家具等の転倒防止をしている	37.7
4. 食料品以外にも、非常時の持ち出し品の備えをしている	42.3
5. 特に、火気器具周辺の整理整頓をしている	23.7
6. 隣近所の人と初期消火や避難について協力できる体制ができている	4.5
7. 住まいの耐震診断を行い、改修工事や補強を行った(行う予定)	3.7
8. 消火器・救急セットなどの備えをしている	40.7
9. ガラスが飛び散るのを防止したり、枕元に靴・スリッパを備えたりしている	10.4
10. その他	1.0
(無回答)	0.9

災害に備えた準備や対策が「ある」と答えた人(920人)に、その具体的な内容を聞いたところ、「家族の集合場所や連絡方法などを話し合っている」(59.5%)がほぼ6割で最も多く、次いで「水や食料(2~3日間程度)の備えをしている」(53.2%)、「食料品以外にも、非常時の持ち出し品の備えをしている」(42.3%)、「消火器・救急セットなどの備えをしている」(40.7%)、「倒れやすい家具等の転倒防止をしている」(37.7%)などの順となっている。(図6-3-5)

図6-3-5 災害時に対する準備の内容



属性分析 (図6-3-6)

【性・年齢別】「水や食料(2~3日間程度)の備えをしている」は女性70歳以上(71.8%)で7割を超えて多くなっている。「食料品以外にも、非常時の持ち出し品の備えをしている」は女性70歳以上(69.2%)でほぼ7割、男性70歳以上(59.3%)でもほぼ6割を占めて多くなっている。「特に、火気器具周辺の整理整頓をしている」は男女とも70歳以上で4割を超えて多くなっている。

図6-3-6 災害時に対する準備の内容 - 属性別

